

# 家康と桶川

詳しくは歴史民俗資料館 786-4030



## 明星院と徳川家康

倉田にある明星院は、室町時代に開かれた真言宗のお寺です。江戸時代には学問寺として関東でも格式あるお寺の一つでした。徳川家康は明

大河ドラマで話題の「徳川家康」ですが、桶川にゆかりがあることをご存知でしょうか。今回は、明星院に伝わる家康ゆかりの寺宝と家康の家臣で、川田谷に関係のある武将「牧野康成」についてお話しします。

（※一般公開はしていません。）

明星院の住職である祐長(ゆうちょう)と親交があり、家康や息子の秀忠が出した書状が明星院に残されています。これらは『明星院文書』として県指定文化財に指定されています。

また、家康自身も何度か明星院を訪れていて、家康(いえなべ)が通つたとされる門は「家康公御成門」と呼ばれています。



▲廄屋の様子を描いた屏風絵。金地の背景に、馬の「静」と「動」が表現されている。



家康公から賜ったと伝わる弁当箱



▲金蒔繪が施された野外用の弁当箱。お重や徳利、受け皿などが収納箱ごと持ち運びできるようになっている。収納箱の上面には慶長17年（1612年）の暦が描かれている。

# 家康家臣 牧野康成



牧野家家紋

三河国（現在の愛知県）の牧野氏のもとに生まれます。正勝と名乗つ

ていましたが、後に家康より「康」の字を与えられて康成と名乗ります。

当時の牧野氏は、今川氏に仕えていましたが、今川義元が織田信長に敗れた後は、松平元康（後の徳川家康）の家臣となりました。

豊臣秀吉が天下統一を果たすと家康は関東へと移ることとなり、康成は現在の川田谷や日出谷を含めた石

戸領（現在の北本市）の領主となりました。石戸領には、江戸時代に将军が鷹狩を行う際に休息として使用した御茶屋がありました。家康も川越方面へ鷹狩に向かう時に石戸の御茶屋で休息して鴻巣御殿で宿泊した記録が残されています。休息所に石戸を利用していたということは、康成は家康が信頼のにおける人物だったことがうかがえます。

石戸の御茶屋については、令和3年に発掘調査が行われていますが、今後も調査が進んでいくと思います。康成は慶長4年（1599年）に

豊臣秀吉が天下統一を果たすと家康は関東へと移ることとなり、康成は現在の川田谷や日出谷を含めた石

戸領（現在の北本市）の領主となりました。石戸領には、江戸時代に将军が鷹狩を行う際に休息として使用した御茶屋がありました。家康も川越方面へ鷹狩に向かう時に石戸の御茶屋で休息して鴻巣御殿で宿泊した記録が残されています。休息所に石戸を利用していたということは、康成は家康が信頼のにおける人物だったことがうかがえます。



▲出土した漆塗り椀  
(埼玉県教育委員会提供)



御茶屋の発掘調査の様子 (北本市教育委員会提供)



前領家のささら獅子舞

現在、桶川市では、ささら獅子舞をはじめとする指定無形民俗文化財（民俗芸能）の映像を桶川市公式 YouTube チャンネルにて公開しています。



松原のささら獅子舞



三田原のささら獅子舞

松原・三田原）で受け継がれている民俗芸能ささら獅子舞でも、牧野氏とのつながりを見る事ができます。川田谷のささら獅子舞は、牧野氏によって盛んになつたと伝えられます。獅子舞の衣装には、「丸に三ツ柏」が確認できます。特に前領家地区では、牧野氏の陣屋で演じたとされ、牧野氏と川田谷の人びとが友好的な関係を築けていたことがうかがえます。



宰領が被る陣笠に牧野家の家紋